

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 若松中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」、文部科学省が指定した日(4月18日から4月30日の間)に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

##### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

##### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

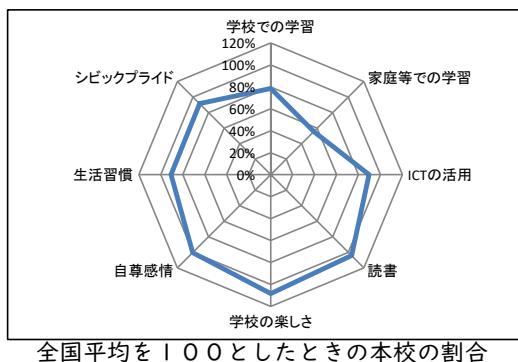
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	いくつかの問題において、全国の正答率に近づいてきている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。	
	努力が必要な問題	自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	いくつかの問題において、全国の正答率を上回ったり、正答率に近づいたりしている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。	
	努力が必要な問題	異分母の分数の加法の計算をすることができる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	いくつかの問題において、全国の正答率を上回ったり、正答率に近づいたりしている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているか。	
	努力が必要な問題	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているか。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>「友達関係に満足しているか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問い合わせに対して約95%の児童生徒が肯定的に回答している。</li> <li>主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与える可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が分かかった「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。</li> <li>ICT機器を使って情報を収集したり、文字を書いたりすることができる児童が増えてきている。一方で、グラフに表したり、プレゼンテーションを作成したりすることができる児童の割合が低かった。今後は、多様なICT機器の活用に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

○国語科では、「必要な情報の見付け方」に課題が見られた。多くの情報の中から、必要な情報を取捨選択する力を身に付ける必要がある。算数科では「图形領域」「計算領域」に課題が見られる。图形領域においては特にタブレットを活用し空間の位置関係や構成を視覚的にとらえることができる授業を開発するようにする。理科では、「生命」を柱とする領域に課題が見られた。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭等での学習については、学校の授業時間以外や土日の学習時間が少ない。休みの日も学習する時間の設定を促していく。学校からも、まとめ方が上手なキラキラノートを紹介し、自主学習の質を向上させるよう、今後も継続して取り組んでいく。生活習慣については、年々向上し、全国平均を上回る項目が増えている。今後も、早寝・早起き・朝ごはん・スマートフォンの使用時間を家庭や地域に啓発していく。